

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語の話し言葉と書き言葉の違いについて
Author(s)	ラウラ ケイコ タキザワ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1992 : 49 - 62
Issue Date	1993-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039329
Right	
Relation	



日本語の話し言葉と書き言葉の違いについて

ラウラ ケイコ タキザワ

①序

a) ブラジルで学習した日本語のテキストは基本的に書き言葉

ブラジルで日本語を勉強していた時は色々なテキストを利用していった。大学に入ってから、日本語の基礎Ⅰ、Ⅱと現代日本事情を使った。だから、いつも書き言葉を勉強し、先生方も学生と話す時は、本の通り、書き言葉だった。

話し言葉は本で勉強しなかったが、時々日本のビデオを見たりしていた。

本で習った通りに話したらいいと思っていたが、何か少し変な感じがしていた。何故かと言うと、私の家庭内で、一世の父と二世の母の話す日本語は、絶対「です」と「ます」は使っていなかったである。家庭内の人と話したら、やはり荒っぽい日本語になってしまうと言えるだろう。が、「です」、「ます」で話すのは、それも変に感じた。

大学に入ってから、いつも先生方から直して頂いて、きちんとした日本語は「です」と「ます」を使うはずと思うようになった。

日本に来た時、「です」、「ます」を使って、友達と話したら、友達からは、そんなに丁寧に話さなくてもいいと言われた。

ある留学生のための授業では、人の地位によって、相手に話しかける時は、話し言葉が違ってくると習った。その時から、どうしていつも先生が私の日本語を直していたか分かるようになった。先生や知らない人と会話をする時は、敬語と丁寧語が必要である。そして、友達と親しくなったら、敬語も丁寧語も使わなくてもいいということが分かった。

いつか日本人同士の会話を聞いた時、おかしいと思った。何故、3年生は4年生に向かって、丁寧語で話していたのだろうか。その上、二人とも大学の友達である。

外国人の私にとっては、それはとても大袈裟に聞こえる。どうして、歳の差があまりなくても、先輩と話す時は、丁寧語で話さなければならないのかと考えて見た。何回も考えて見たが、よく分からなかった。結局、「やっぱり文化の違いだな」と思った。

話し言葉と書き言葉は、随分違うが、書き言葉で話す時も、たくさんある事に気が付いた。しかし、実際に日本人の中に入って、日常生活を送る中で、書き言葉を使って話しをすると大変不自然であることが分った。

例：(話し言葉) 島に帰るって言ってたじゃん。

(書き言葉) 島に帰ると言っていたではないですか。

(2)

(話し言葉) 冗談じゃないよ。世の中にはね、まったく悪いことをしない人間って、何人いると思う。二人だよ、二人。

(書き言葉) 冗談ではない。世の中には、まったく悪いことをしない人と言うのは、何人いると思う。二人だ、二人。

(話し言葉) 遅いんだよ、もう遅いんだよ。だって、美兎さん、もう病院に行っちゃったんだから、もう赤ちゃんいないんだから。

(書き言葉) 遅いのだ、もう遅いのだ。けれども、美兎さんは病院に行ってしまったのだから、もう赤ちゃんはいないのだから。

自然な日本語を学習する為に、話し言葉を習得する必要があることが分かった。書き言葉と話し言葉とは、何処が違うかをはっきりさせておく必要がある。これがレポートの主題である。

b) 広島方言の問題

ところで、私が広島に来て生活を始めてすぐ気が付いたのは「方言」の問題である。「方言」も話し言葉の問題の一つである。

例：心配 せんでもいい。

(しなくても)

終電に乗れ りゃええ じゃろう。

(ればいいでしょう)

もう ええ けん。とにかく今日は 遅 うなる け。

(いいから)

(遅くなるから)

まだ仕事が残っ と る けん。

(ているから)

ここを3年も離れて、わ しゃ、ど が い な こ に な る ん じ ゃ。

(私は)

(どんな)

(のだ)

今は人間より自動車が出て い き よ る。

(いっている)

離れとうもない日本を離れて、家を離れて、娘とも。
(たく)

それをぬくめて、食べんさいよ。
(あたためて) (なさいよ)

以上のように、「日本語の話し言葉」という場合、

- 1) 共通語の「書き言葉」に対する「話し言葉」、という問題と共に
- 2) 「共通語」に対する「方言」、が問題になるが、ここでは、この中の「方言」の問題にはあまり深く立ち入らないことにしたいと思う。

即ち、共通語の「話し言葉」に焦点を絞って考えて見たいと思う。

②ブラジルポルトガル語の書き言葉と話し言葉

日本語もポルトガル語も脱落と発音の問題がある。

例：(書き言葉) Vamos tomar sorvete? (アイスクリームを食べましょうか)
(話し言葉) Vamo tomar sorvete?

(書き言葉) Está com frio? (寒いですか)
(話し言葉) Tá com frio?

(書き言葉) Espera um pouco. (ちょっと待ってください。)
(話し言葉) Pera um pouco.

(書き言葉) O que é que você quer? (あなたは何が欲しいですか)
(話し言葉) Que que cê quer?

(書き言葉) Estou morrendo de saudades. (とつても懐かしいです。)
(話し言葉) Tô morrendo de saudade.

(書き言葉) Coitadinho dele. (彼は可哀相です。)
(話し言葉) Tadinho dele.

以上のように、ポルトガル語にも書き言葉と話し言葉の違いがあり、会話では書き言葉

(4)

を使うとおかしくなる。日本語の学習でも、自然な会話をする時に話し言葉を学習しておくことが重要になると考えられる。

③日本語の話し言葉の姿

次の二つの資料を使用する。

- 1) テレビドラマのシナリオ：「月夜のうさぎ」より
NHK脚本コンクール入選作、脚本 金谷 祐子
- 2) 筆者と日本人との会話

3.1.1. テレビドラマのシナリオの場合（実例は代表的なもののみを示した）

イ. 脱落

a) 文の一部の脱落

. 主語

おまえは本気なの。（おまえは）本気で口止め料取る気。

. 述語

これはね、ちょっと私が丸めて、こっちは美兎さん（が丸めた）。
お酢でメリケン粉を...（溶かす）

. 目的語

イサムさん：「メリケン粉？」

美兎さん：「もしあれば、少し（メリケン粉を）お酢で溶いてくれる。」

. その他

イ：「こりゃ折れちゃいけないでしょうね。」

美：「（折れちゃいけない）と思うけど。あいたた。」

b) 文節の一部の脱落

. 助詞の脱落

b. 1. が

気持ち（が）いい。

そんなこと全然言われたこと（が）ない。

b. 2. を

足（を）くじいたんだ。

何（を）してんだよ。

b. 3. は

モモちゃんがいなけりゃ、今頃おまえ（は）、もっと落ち込んでたぞ。

ひょっとして、それ（は）母子健康手帳か。

b. 4. へ

あたしなんてさ、学校（へ）もろくに行っていないし、やっぱり勉強はしといた方がいいね。

b. 5. に

ほんと（に）よかった。

. その他

これじゃ駄目（ですか）。

（それ）で、どのくらいになる？

c) 語の一部の脱落

c. 1. 拗音化

. では>じゃ dewa>dja

冗談じゃないよ。

. には>にゃ niwa>nja

痛いって言ってんだから、追い出すわけにゃいかないよ。

. れは>りゃ rewa>rja

そりゃそうだ。

(6)

・ れば>りゃ reba>rja
モモちゃんがいなけりゃ、今頃おまえ、もっと落ち込んでたぞ。

・ てしまった>ちゃった leshimatta>tjatta
勝手に片付けちゃったりして、あたしこそごめんなさいね。

・ ては>ちゃ tewa>tja
こりゃ折れちやいないでしょうね。

・ いる>る iru>ru
だって開いてるかな。

・ しておく>しとく shiteoku>shitoku
やっぱり勉強はしといた方がいいね。

・ いけば>きゃ ikeba>kja
テレビも冷蔵庫も全部背負ってきやいいだろ。

・ なにか>なんか nanika>nanka
なんか訳ありの手帳っぽいですよ。

・ せんとくき>せんたつき sentakuki>sentakki
もし口止め料があったら、あたしせんたつき欲しい...

c. 2. 撥音化

わからないよ。>わかんないよ。 wakaranai>wakannai
さっさと帰りなさいよ。>さっさと帰んさいよ。 kaerinasai>kaennasai

c. 3. 促音化

確かどっかで...。 dokokade>dokkade

その他

・ うち>ち ulji>tji
ねえ、これからお父さんち行かない？

・ の>ん no>n

こんとこ。(このとこ)
 何してんだよ。(何しているのだよ)
 何ができんだよ。(何が出来るのだよ)

ロ. 増加

. 間投助詞

例：小さい頃ね、してもらった覚えがあるわ。
 だけどなあ、身元引受人としては気がもめてなあ。
 あんまりほめられたことなかったからさ、あせっちゃった。
 モモちゃんはねえ、知らないんだ、自分の父親の顔も名前も。
 この子さあ、ジャラジャラって玉が出て来ると、すっごく喜ぶんだよ。
 だけど、一人にしといたらさあ、…。

. 終助詞

例：冗談じゃないよ。
 こりゃ折れちゃな**い**でしょうね。
 だって開いてるかなあ。
 なんでもいいの。
 これじゃ、帰れないわよ。
 もっとずっと、あの島なの。
 今夜は駅のベンチでも寝るわ。
 まあ普通じゃないよな。
 家出かな。
 誰だって泥棒だと思うわよね。
 まったく冗談じゃないですよね。
 わざとぶつかってお金取るっていうさ。
 だっておれ自動車だぜ。
 行くぞ。
 重いわねえ。

ハ. 話し言葉独特の言い方

…って

(8)

心配ないって。

...っけ。

どういうんだっけ。

...なんて

あたしなんてさ、学校もろくに行っていないし、やっぱり勉強はしといた方がいいね。

...だって

おれだって、いつぼっくりいっちゃうか。

...ったって

無理はないか。許すったって。

...ったら

飼ってやりたいんだけどさ、ここの大家ったら、こんな顔しちゃってさ。

二. 語順の逆転

絶対おかしいよ。

(逆転) おかしいよ、絶対。

ねえ、湿布葉って、どういうんだっけ。

(逆転) ねえ、どういうんだっけ、湿布葉って。

モモちゃん、できてんだろ。

(逆転) できてんだろ、モモちゃん。

3. 1. 2. シナリオの話し言葉の特徴のまとめ

このドラマの話し言葉を分析すると、以下のように考えられると思う。

◎助詞は、ある時はなくても意味が通じるから消えてしまう。特に速いスピードで話している時には、誰もその事に気が付かないと思う。それは、話し手が言ったことが分かったら、もう大丈夫だということではないかと思う。

◎主語と述語が脱落しなかったら大変不自然になるだろう。何回も同じことを繰り返すと、話し手も聞き手も随分疲れてしまう。話しの内容さえ分かっていたら、主語や述語がなくても、話している事は分かる。どうしても分からない時は、主語と述語を言う必要が

あると思う。

◎「語の一部の脱落では、書いてあるまま（書き言葉のまま）話したら、不自然に聞えてしまうと言えるのではないだろうか。

私が気が付いたことは、ほとんどの母音が落ちてしまう事である。特に二つの言葉が助詞によって、繋がっている時、あるいは母音が子音に挟まれている時、母音の省略が行なわれる。

例：ここんとこ。 ko no loko>kokontoko

助詞が真ん中に使っていない例：

なにか>なんか nanika>nauka

どこかで>どっかで dokokade>dokkade

一つの言葉の例もある。例えばせんたくきと言う言葉が字のままで発音されたら、話しやすくない。

sentakuki>sentakki

◎自然に聞こえる為に「え」の発音は「い」になってしまう。しかし、最初から「い」の場合は、そのまま「い」の発音を続ける。

例：では>じゃ dewa>dja

には>にゃ niwa>nja

れは>りゃ rewa>rja

◎感情を表したい時は、間投助詞と終助詞がよく使われている。けれども、ドラマの女優は、どんな時にも「さ」を使っていた。それがなかったら、話しが続けられないと感じられる。しかし、日本人が話す時、普通はそんなに大袈裟には話さないと思う。だから、個性もしくは癖としか言えないと思う。

一番よく使われているのは「ね」、「よ」、「なあ」と「よね」である。

3.2. 筆者と日本人との会話の場合

イ. 脱落

a) 文の一部の脱落

・ 主語

女A：でもね、大学に入る前に先生になりたかった？

女B：（わたしは）日本語教師にはなろうと思った。

・ 述語

女A：ここで卒業したら、仕事ない？大学で。

女B：大学で仕事？（をすること）

・ 目的語

男：あっ写真、カメラ。

女：今は（カメラを）持ってないんだって。

・ その他

女：そのせいで流行ったの？

男：（そう）かな。

b) 文節の一部の脱落

・ 助詞の脱落

b. 1. が

帰って来るの（が）8月だったけど。

b. 2. を

又、電話（を）するね。

b. 3. は

内のお母さん（は）変だけど。

b. 4. に

... 藤だな藤だなんて言うか、ちょっと公園みたい（に）なってる。

b. 5. で

自分（で）言ったこと、もう既に字に出来ない。

b. 6. も

これから、どんどん人数（も）増えていくし...

その他：

あの変なプログラム（ですか）？

（それ）で、クリスマスカード来たんよ。

c) 語の一部の脱落

c. 1. 拗音化

．では>じゃ

Aさん：彼も卓球好きでしょう。

Bさん：うん、好きだけどあまり上手じゃない。

．ければ>きゃ

私も帰らなきゃ。

．てしまう>ちゃう

公園ってなっちゃう？

．ては>ちゃ

なんかこんないい時期になんでこんな厳しい就職しなくちゃいけない。

．いる>る

智春って知てる？

．なにか>なんか

やっぱり元々、なんかの先生になってみようと入って来た子も多いね。

c. 2. 撥音化

志水さんはどうしてるかね。もうすぐ帰って来るもんだな。mono>mon

c. 3. 促音化

もうこっから入って来ないわけ？ kokokara>kokkara

その他：

もうおれんとは大丈夫よ。

ロ．増加

．間投助詞

でもね、一日ね、あまり行きたくないな。広銀は。

もう、とうとう決まって、せめて卒論だけになるとかさ、就職活動だけになるとかさ。

あのう、ん々しいな、あたし。

私も樹ちゃんに伝えて欲しいなあ、同じこと。

全国的かね、おれは知らんけどトンネルズの。

．終助詞

一応、金曜でもちよこつとやったらいいね。

そうよ、大丈夫よ。

行くわよ。

どうしたのかな...

亀ちゃんはいいい人よね。

去年、地震もあつたしなあ。

就職活動だけになるとかさ。

分かんねよな。

これ、どうやって使うの?え、もしかして、テープ、文字にするの?書き取るの?

全国的かね。おれは知らんけどトンネルズの。

．話し言葉独特の言い方

...って

これって8月とかに帰る人のための?

...っけ

Aくん：今一人。今一人しかいない。会社決まった人。

Bちゃん：一人だけ?

Cくん：うん、今まで一人だけ。早苗ちゃんだっけ？

二. 語順の逆転

先輩はけっこうよく学校へ来てたね。

(逆転) けっこうよく学校へ来てたね。先輩。

きっと、すごい大変よ。

(逆転) すごい大変よ。きっと。

*

結論

ドラマと日常生活での生の日本語を比較すると、次のよう考えられる。

◎ドラマは自然の物ではないので、間投助詞と終助詞がよく使われている。日常的な日本語では必ずしもそうではなく、ドラマのようにそんなに大袈裟には使われていない。

ドラマではよく「そうかな」を耳にしたが、日本人の友達と話す時、多くの人は「そうかね」と言っていた。

私にとっては「そうかな」は自分だけが考えていることだと思う。「そうかね」は聞き手が同じ意見を持っている様に感じられる。

録音した日本人の会話の中では、「わ」、「わよな」、「ぜ」と「ぞ」は全然聞かれなかった。が、日頃接している人の中には、これらを普通に使っている人も多いと思う。

◎女性だけが言えることと、男性だけが言えることもある。女性だったら、「わ」を使うが、絶対に「ぜ」や「ぞ」とは言わない。その逆も同じである。「ね」、「よ」と「よね」は男性も女性も使う言葉だ。

◎「文の一部、文節の一部と語の一部の脱落、終助詞と語順の逆転はドラマと実際の会話の両方でよく行なわれる。けれども、ドラマでは独特の言い方は使い過ぎではないかと思う。「って」、「っけ」、「なん」、「もん」、「だって」は普通の会話でよく聞くが「ったって」と「ったら」は滅多にないという気がした。

◎多くの主語は省略される。主語が分からない場合にしか言わないようだ。

◎述語も省略している。イントネーションとか話し手の顔つき、身振りなどが同時に聞き手に向かって働く。

参考文献

- ・ ドラマ「月夜のうさぎ」より
NHK脚本コンクール入選作 脚本 金谷祐子

- ・ 短編ドラマ
アメリカ勤務を命ず（広島方言の資料として利用した。）

- ・ 金田一春彦（編）．昭和三十年十一月二十日．「講座日本語第三巻 日本語の種々相」